

学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川

至誠学園

平成 18年 3月 1日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

HP <http://www.shisei.org> e-mail info@shisei.org

発行責任者 施設長 高橋 久美子

新年を迎えて…

子どもたちの明日にさらなる努力を

学園から眺める遠く秩父の連山、そして富士山の頂の雪も、どこか春を感じさせる今日このごろでございます。日頃、学園の子どもたちのために、また運営に対しお力添えをいただき、心より感謝を申し上げます。平成 17 年度も終わろうとしておりますが、この一年学園が新たな挑戦として、地域の皆様方のお力添えをいただきながら、日野市の東北部を中心とした地域にグループホームを設置し、地域分散型サテライトケアの家庭的児童養護を進めてまいりました。今日、新聞等でも報道される子どもたちの悲惨な事故など、尊い命が失われていく、または傷つけられていくことなどを考えますと、非常に胸が締め付けられ、また子どもたちの可能性に対し、更なる努力を社会の一員として、目指して行く事が使命として感じざるを得ません。本年度も終わりに近づいてきましたが、変わらぬご支援に感謝を致し、皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

(統括学園長 高橋 利一)

「私もフランスへ行く！」あれから 12 年…

フランスのドラローシュご夫妻にお会いしたのは、今から 12 年前の春のことでありました。当時御主人はフランスから派遣され、外資系の日本の企業でお仕事をされて、約 6 年間日本に滞在をされておりました。その間、日本の乳児院から二人の子どもを養子として迎えられ、養育されておりました。

帰国後、二人の子の内一人にきょうだいがいることが分かり、当時関係していた児童相談所に問い合わせがあったことから、学園の A ちゃんに養子のお話が児童相談所を通してありました。当時、A ちゃんが小学校二年生でした。乳児院から児童養護施設に措置され、家族についてはほとんど知らされていない状況でありました。児童相談所の児童福祉司はこの縁組を支持されました。



再度来日されたドラローシュ婦人もまた強く希望され、外出等を通して A ちゃんと接する中で、福祉司、児童相談所としての方針がたてられました。A ちゃん自身がこの関わりと妹に対して、非常に興味を示し「私もフランスに行く」と決心したことが縁組の前提にありました。

その後、成長していく A ちゃんの姿は、写真やカードでご報告頂き、「A 子が 18 歳を迎えた時、一度フランスへ来て会ってほしい」とのご夫妻からの要請で、学園長、当時の福祉司、乳児院の職員とともに、フランスのドラローシュ家を訪ねました。そして、A ちゃんに近況を聞いたり日本の話をするとう「一度みんなで日本へ行ってみたい」というご一家の意向があり、それから 2 年が経過した今回、実現しました。

昨年の 12 月 20 日の午前、御一家 7 人で成田空港に到着され、当園には一週間滞在されました。学園の行事に加え、浅草、歌舞伎町、渋谷、秋葉原、鎌倉、博物館や催しなど様々な場所を回られました。

特に学園の子どもたちと過ごした 24 日のクリスマス会は、心に残られたのではないかと思います。他にも子どもたちと富士山へ出かけたり、大晦日の夜に除夜の鐘をつきにもいきました。帰国される当日の朝には、諏訪神社へ初詣に行き、施設長以下着付けに自信のある職員によって、記念にご家族の皆さんで晴れやかな着姿の写真を撮りました。

この御一家の来園が、国際色豊かな風を子どもたちの生活へもたらして下さいました。

(施設長 高橋 久美子)

至誠学園の現況

至誠学園には、現在児童相談所より措置された76名の子どもたちが生活しています。本園の4つのユニットホームでは、生活単位を1グループ10名から13名、それぞれを男女混合、縦割りの年齢構成となっています。生活する子どもたちの意見が反映され、生活プログラムとメンバー構成に配慮しています。

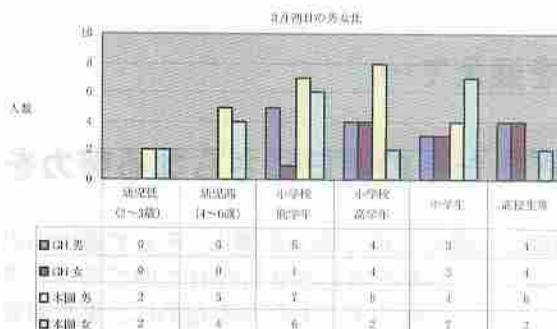
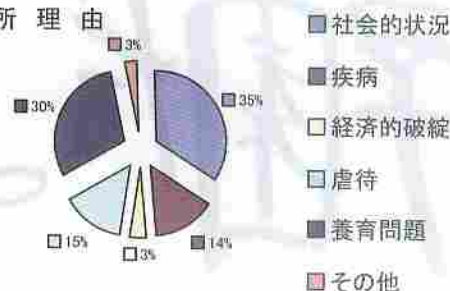
日野市には、地域小規模児童養護施設を含む家庭的形態の4つのグループホームがあり、それぞれ6名の子どもたちと職員が生活しています。家庭的経験の少ない児童、自立を控えた高齢児が、地域社会の中で地域の方々の協力を得て、より連携を深め小集団での生活を展開しています。

以前から、小学校の登下校には職員が同行しておりましたが、近年学校で上手く適応できない子どももおり、授業支援のために職員が毎日一緒に付き添っている現状です。安心した生活圏を確保していくために、学校や関係機関、医療機関、行政との連携と共に、地域の方々の正しい理解を得る努力をしているところです。

※グラフ中の「GH男、GH女」は5ヶ所のグループホームの、男女それぞれの合計数です。
 ※グラフ中の「本園男、本園女」は本園4ホームの男女それぞれの合計数です。

3月初日在籍数 77名

入所理由



家庭的養護推進モデル事業について(平成17年度東京都モデル事業)

社会の状況によって展開の仕方は異なっているものの、学園は開設の理念をみてもわかるように、常に社会や家庭の保護者に代わって、援助を必要とする子どもたちに望ましい養育の場として、家庭的養護を率先して提供してきました。

今年度、東京都の「家庭的養護推進モデル事業」を受託し、子どもたちの心理的な問題に向けて、精神科医師による治療指導や臨床心理相談室の活動による職員のケアの専門性を高める方向と、子どもたちの自立支援に向けて家庭的養護の方向としてグループホーム主体の地域分散型サテライト施設の運営の試行という2つの方向の養護を実施しました。

ケアの専門性を高める

★ 精神科医によるケースカンファレンス

—皆川邦直先生

(医学博士、法政大学現代福祉学部教授) —

毎回、各グループホームから提出された、困難な問題を抱える児童やその家族への援助を、ゼミナール形式のなかで具体的に学びました。先生の明確な分析と方向付けに、毎回励まされて先が見えていく思いです。

★ グループホーム職員へのコンサルテーション

—若松亜希子先生(臨床心理士)がホームを巡回—

子どもたちも若松先生と一緒に遊ぶと、先生の来る日を楽しみにしています。また、各グループホームのスタッフも、ホームにおける子どもたちのより良い成長や、子どもたちのかかわりを客観的に見られるとのことで好評です。

子どもたちの地域における家庭的養護として

★ 地域分散型サテライト養護の試行

一定地域に家庭的養護の場として、グループホームを統合し、各グループホーム相互の連携、それを支えるシステムを構築します。市民としての生活づくり、学校や地域社会との連携など、模索しながら運営しています。

★ 新設グループホームのお知らせ

—2006年(平成18年)3月1日の開設—

年少児を中心として、特に愛着関係を意識した養育をめざし、東京都と協議しながら設置をすすめています(6ヶ所目)。

★ 里親研修会 <2005年(平成17年)11月28日>

—清水幹夫先生(法政大学現代福祉学部教授)—

これまでの「至誠さくら支部」とのかかわりをふまえ、養護施設の機能を生かした里親への支援の展開として研修会を行いました。「内面的成長を促すコミュニケーション」と題して清水先生は、「問題は成長のきっかけである」とお話しされ、具体例も交えながら、科学的に説明してくださいました。

★ 都市家庭在宅支援事業《アドボケーター》

子どもや家庭における問題の相談を、学園のベテランスタッフが24時間専用電話で児童虐待などの相談に応じるシステムです。地域社会の様々な社会資源と連携、支援ネットワークを構築します。厚生労働省の補助事業ですが、近々廃止の方向が示されています。

第2回公開シンポジウム「児童虐待を考える」

—参加 180名、盛況のうち終了—

昨年に引き続き、児童虐待防止月間の啓発事業として、2005年(平成17年)11月25日(金)アミュー立川の小ホールを会場に、立川市、立川社会福祉協議会の後援により行いました。

当日のシンポジストは、村瀬嘉代子先生(大正大学人間学部大学院教授)、皆川邦直先生(精神科医・法政大学現代福祉学部教授)、立川児童相談所所長 豊岡敏氏、立川子ども家庭支援センター 八木秀夫氏の方々をお招きして、コーディネーターとして統括学園長高橋利一がまどめを担当、そして当日は立川市子ども家庭部の市川部長も会場からご発言をくださり、参加者からは「こんなあたたかいシンポジウムは初めて。私も力をもらった」「地域援助者2名、医学、心理学者2名の配置はよい、本来は行政がやるべきことで立川市の方もよかった」などのご意見をいただき、来年に期待をつなげました。



村瀬嘉代子先生(大正大学人間学部教授)のご発言から

育てる、はぐくむというプロセスを出来ることに喜びを感じ、それを引き受けるためにはどのような要因があるだろうかと考えてみますと、いろいろ苦勞もあるが、この過程そのものが楽しいと思える、こういう経験を与えられたと思えることが子育てには大事だと思います。これは親だけでなく、じかに子どもに接する大人が、自分の人生を素直にありのままに享受するということが、必要ではないだろうか。自分が知り得たものをさりげなく、しかし相手への配慮を込めて、日々の営みを通して伝えていくことができる、そのためにはまず、その人が生まれ育ってくる時に、存在を受け止められるという経験を持つことが基本にあるのかなと思います。



中国よりジャーナリスト、教育関係者団来訪

9月9日、外務省および厚生労働省を通して、中国ジャーナリストの方々に来園されました。中国の新聞記者、テレビ放送局のディレクター5人と通訳の方々でした。

イギリスの大学や大学院などで学んだ方もいらして、今回の来園は日中友好関係の正常化に向けた国の施策の一環であると考えていましたが、政治的な問題は意識することはありませんでした。日程の中で、社会福祉に関するプログラムは当園の見学のみであったようですが、子どもたちの背後にある問題や日本の児童福祉施策、子どもたちの日常生活、施設の経営などについて強い関心を示されていました。

施設見学の後、ホールで幼児による日本舞踊をお見せした時には、子どもたちの愛らしさと同時に、その子どもの入所に至る状況を想像してか、涙する方もいらっしゃいました。



(中国教育関係者団 23名をお迎えして、記念撮影)



(日本舞踊を披露した子どもたちと笑顔で交流)

帰国された後、中国での反響は想像以上に大きく、来園の内容は、9月29日付「中国青年報」に掲載されました。中国に限らず、シンガポール、韓国、マレーシアなどの各国へも伝えられました。外務省から送られたその一部をご紹介します。

その後、11月16日にもその記事を読まれた中国教育関係者代表団が23名来園されました。

教育应该让最穷的孩子也有尊严

本报记者 王冲

“对于本次访日活动，您对哪个项目印象最深？”看到日本外务省问卷里的这个问题，我毫不犹豫地写下了我的感想：在儿童福利院和孩子们一起度过的时光最快乐，印象最深刻。

(左)9月29日付「中国青年報」より抜粋。
日本語訳：
「今次訪日活動で、あなたはどのプログラムが一番印象深かったか。」日本外務省のアンケート調査の中のこの問題を見て、私は少しもためらわずに自分の感想を書いた。「児童福祉施設で子供たちと一緒に過ごした時間が最も楽しく、最も印象深かった。」

年末年始の学園の様子

毎年、学園の年末は大忙し。まずは大掃除です。子どもたちと各居室の掃除、共通のホール、レストラン、園庭などは各ホームで分担してきれいにしました。特に今年は、ドラドッシュ家のお見さんたちが手伝ってくださったり、庭のベンチや表門のペンキ塗りを学園の男の子たちとやりました。学園の正門や建物の入り口には手作りの門松やお正月飾りが飾られ、新年を迎えられる準備が早くから行われました。大晦日は、みんなで年越しそばをいただいて、除夜の鐘つきに近くの光西寺へ出かけました。子どもたちは、新しい年への希望や願いをおのおいの祈りながら鐘をつきました。

年が明け元旦の朝は、全員で屋上に集まり青空の下、富士山を仰ぎながら、新年のご挨拶を元気に交わしました。サイダーで乾杯、記念撮影の後、レストランでおせち料理とお雑煮をいただき、あらためて新しい年をお祝いしました。おせち料理は、学園の栄養士、調理の方々によるもので、一人ひとりお重に用意され、今年の一品が添えられたのでした。



今年の年女年男によっておとそがつがれ、銘々「おめでとございます」と言いながら杯を口にしていました。施設長、学園長からお年玉袋をもらい、子どもたちにとっては一年の始まりを感じる時でもありました。また、今年こそ獅子舞にも来ていただき、今年一年間の健康と安全を皆で願うことができました。初詣には、諏訪神社へ出かけました。

1月2日には書初めを行い、午後は卒園生友会の皆さんが集まり、子どもたちをボーリングやレストランにご招待をいただき、夜はホールで焼きそばを囲みにぎやかな夕食会。卒園生の皆さんとともに、楽しいひとときを過ごしました。



(錦六会のご協力で獅子舞も登場していただきました)

グループホームはみんなで勝浦の家にてお正月

(平成17年12月30日~平成18年1月3日)

年末年始は各グループホームを閉鎖して、グループホームで生活している児童を中心に、15名の児童と4名の職員で勝浦の家でお正月を迎えました。年末の二日間は、皆で勝浦の家の大掃除やおせち料理作り。大晦日の夜には、高齢児を中心に除夜の鐘つきに行きました。元旦の朝は、太平洋の水平線からの初日の出に大歓声、その後、皆で新年の挨拶を交わり抱負を語ることから始まり、新年の席には、おせち料理と勝浦の家をご寄贈くださった徳井美千代様から頂いた大粒のいくらが、新年の食卓を彩りました。その後、全員で誕生寺に初詣に出かけました。子どもたちは書初めやダーツ大会に熱中していた様子です。勝浦ではそれぞれがゆっくお正月を過ごすことができました。

クリスマス特集

横田ベースディナーご招待(12/11)

今年も横田ベースで働く司厨士協会様からのご招待で、外国の文化を肌で感じながら、美味しいクリスマスの馳走をみんなで頂くことができました。中学生・高校生の代表が、お礼のカードを準備し、英語で感謝の言葉を述べるなど、年長児の力を発揮する場ともなりました。

サンタプロジェクト 2005 (12/17)

ゴールドマンサックス証券の皆様から子ども達一人一人の希望していたプレゼントとたくさんのお菓子、ジュースを用意して頂き交流会を開催しました。お礼は子ども達からの歌とダンスの楽しい一時でした。

クリスマス会 (12/24)

今年も盛大にとり行われました。多数の方々にご来園して頂き、子ども達と共にクリスマスを楽しんで過ごして頂きました。1部では子ども達の楽しい発表を、2部ではフランスからドラローシュさんご一家をお迎えしての賑やかなクリスマスの食卓となりました。



(おまじかね学園のサンタクロース登場)

スポーツも頑張りました!

運動会 (10/23)

立川ライオンズクラブ様との共催の第10回運動会が開催され、ライオンズクラブの皆様や子どもの親御さんなど多くの方々積極的に競技に参加され、大いに盛り上がりました。

Jリーグサッカーご招待 (11/5)

東京善意銀行様のご招待により、ジェフユナイテッド千葉 VS ガンバ大阪の試合を観戦させて頂きました。白熱した試合となり、サッカーを楽しむ事ができました。

6プロサッカー大会 (11/26)

昭和記念公園において行われ、見事第3位に輝きました。一人一人にメダルをもらい、子ども達にとっても自信を得る大会となりました。

6プロ駅伝・マラソン大会 (2/11)

第26回三多摩児童養護施設駅伝・マラソン大会が開催され、みんな精一杯走る姿や一生懸命声援を送る姿が印象的でした。結果はマラソンの部6位までの入賞者は5名、小中学生で構成された駅伝チームは、日頃の練習の成果を発揮し、6位入賞となり立派な賞状や盾を頂きました。



(昭和記念公園にて)

主な行事のご紹介

ダイエーユニオンさんと園遊会 (9/10)

今年も多くの遊びを提供して下さい、楽しい思い出に残る一日となりました。晴天に恵まれ用意していただいたパーベキュー、スイカ割りも最高でした。

アフンの森 (9/17~19)

財団法人C. W. ニコル・アフンの森財団様と日本アムウェイ株式会社 OnebyOne 子ども基金様のご招待により、森という非日常の中で五感に問いかけながらの3日間、貴重な体験を積むことができました。

敬老行事・慰問 (9/19)

老人ホームの『お祝いの会』で、折り紙で作ったメダルをお年寄り1人にお渡しし、皆で歌のプレゼントをして喜ばれました。

サンリオピューロランドご招待 (10/1)

交通遺児等を支援する会様からご招待を頂き、総勢29名で楽しい1日を過ごしてきました。キャラクターやアトラクションに大喜び、興奮ぎみの子どもたちでした。

ミュージカルご招待 (10/30)

日産労連様、日産労連NPOセンター「ゆうらいつ 21」様より劇団四季の「人間になりたがった猫」に招待していただきました。総勢25名で感動の時間を過ごす事ができました。

施設文化祭 (11/6)

子ども達の生き生きとした動き、心から楽しんでいる様子が見る人にも伝わる感動のステージでした。



(みんなでワッショイ、力いっぱい祭りを表現しました)

七五三 (11/15)

6名の子どもが、色鮮やかな着物や凛々しい袴姿で記念撮影の後、諏訪神社に参拝し、児童相談所や老人ホームへのご挨拶で晴れ姿を披露しました。

りんご狩りご招待 (11/20)

平素よりご支援頂いている徳井美千代様より、りんご狩りにご招待頂きました。総勢25名で参加し、みずみずしいりんごを取り、たくさんお土産に頂きました。

いなげやお料理コンテスト (11/27)

いなげや労働組合様に提供して頂き、買い物や調理も子ども達が太活躍のお料理コンテストを開催しました。ピザや手巻き寿司など審査員が困るほどの力作揃いでした。

ウインターバザー (12/4)

ボランティアの皆様のご協力を得て、天候が崩れたにもかかわらず多くのお客様にもご来場いただき、大変盛り上がったバザーにすることが出来ました。大変感謝しております。次のあじさいバザーもたまたま計画ですので、皆様のご来場・ご協力を心よりお待ち申し上げます。

節分 (2/3)

ホームに現われる鬼に扮した職員を、年男年女に当たる子どもと職員が豆で追い払い、いわしの頭を焼いてヒイラギと一緒に玄関先に飾り付け無病息災を願いました。

※この他にも数多くの機関や団体の皆様に行事活動のご招待、ご協力をいただきました。紙面の都合上、お載せできない機関や団体の皆様にはこの場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございます。



(立川市の諏訪神社にて)

地域活動

ガールスカウト東京158団

ガールスカウトでは、各部門ごと又は、全部門で様々な活動を行い、秋にはクリーン多摩川、赤い羽根共同募金を始めとする奉仕活動と、ピーズクラフト、バザー、クリスマス会、初釜、チョコレート作り、サイクリング等の室内外での活動が行われました。中でもピーズクラフトやチョコレート作りはスカウトたちのアイデアが、いっぱい詰まったユニークで個性的な作品がたくさん見られる楽しい活動となりました。

サイエンスクラブ工作教室

11月20日に、児童館アトリエにてサイエンスクラブ工作教室『万華鏡を作ろう』を開催し、ふたを開けて自分で中身を交換することができる万華鏡を製作しました。子どもたちはビーズや紙など思い思いの材料を入れて覗き、その不思議な模様の変化を楽しんで、筒の周りにはペンで絵を描いたり、シールや折り紙で模様をつけたりと、見るだけでなく作ることも楽しみながら、世界で一つだけのオリジナル万華鏡を完成させました。

モンテッソーリ立川子どもの家

2月25日、子どもの家の君子蘭のつぼみが膨らみ始めた頃、ひな祭り会が行なわれました。週1回お稽古した日本舞踊の成果とかわいらしい着物姿に温かい拍手をたくさん頂きました。3月4日はお別れ遠足。卒園を迎える年長児6名とサンシャイン水族館へ行ってきました。園庭の紅梅が香る中3月11日にはいよいよ卒園式です。思い出のアルバムに何を入れようかと子ども達と話しながらしらずつ卒園の準備を進めています。

至誠児童館トムソーヤの森(自主運営の児童館)

児童館では季節のイベントを行っています。10月のハロウィンパーティーでは子どもたちがそれぞれ作った衣装で仮装しました。12月のクリスマス会では、河西陽子様から頂いたケーキをみんなでおいしくいただきました。1月には夏に行った「アートワークショップ」の報告会があり、クロアチアの子どもたちからたくさん絵のプレゼントを頂いています。これからも楽しいプログラムを考えていきたいと思っておりますので、ぜひ遊びに来てください。

ボーイスカウト立川第四団

昨年10月より第40期がスタートし11月3日には多摩川地区ラリーがあり300人以上が集まりました。各隊の活動としては、ボーイ隊が飯能駅から学園までのオーバーナイトハイクを行い、参加スカウト全員完歩しました。カブ隊はみかん狩りハイクや焼き芋作り。ビーバー隊は落ち葉を使って絵を描いたり、雪遊びを行ないました。団としては新年会で、立川駅からの清掃奉仕とコマ回しなどの正月遊びを行ないました。2月にボーイ隊とカブ隊が合同で新潟県にあるシャトー塩沢スキー場にてスキー訓練を行ないました。今後はボーイ・カブ隊の地区訓練キャンプが3月に予定されています。また、今年には日本ジャンボリーの年で、石川県の珠洲市で開催されます。派遣隊については準備計画をしております。

研修報告

児童福祉施設職員のためのワークショップ (10/25~26)

講師田中万里子先生のリスニングスキルを学習してきました。対話の相手の話に込められている気持ちを汲んで的確に言い直してあげることで、感情表現を促進させたり、感じている感情を確認させるなどの技術の向上のための研修会でした。日常生活の中で早速実践しています。

ステップアップトレーナー養成講座 (7/6~8, 10/5~7)

前期・後期2回の研修で全27の講座と演習を受講して来ました。「愛着障害と治療的養育」、「性的虐待への対応・援助」についてロールプレイを重ねて、限界ではなく施設で私たちは何ができるのかを、たくさんの方、講師の方から学習させて頂きました。

資生堂児童福祉海外研修 (9/24~10/8)

資生堂社会福祉事業財団主催の海外研修に参加させていただきました。「虐待」をメインテーマに、15日間で16箇所の施設・機関を見学し、人権、福祉の面で日本の10年先を行っていると言われるカナダでの児童福祉の現状を研修し、これからの日本の福祉にどう活かしていけるかを考えるという研修でした。民間機関では子どもにアンケートを取り、子ども自身が虐げられていると感じているかの調査を行ない、子ども同士、恋人同士の暴力も取り上げて研究し、かんしゃくを起こしやすかったり、キレやすい子を科学的に対応する施設もありました。幅の広い福祉の実践について学習させていただきました。

海外研修先

カナダ ケベック州モントリオール オンタリオ州トロント・オタワ



秋の職員研修 新たな養護の模索

平成17年全職員を対象とした秋の職員研修は、特徴的な事業をされている施設を、学園職員が4グループに分かれて訪問させていただきました。虐待や情緒的な問題行動に対するケアには日々苦慮し、多様化した問題を含む児童の多い現状です。福祉や心理、医療、教育が協力して児童の育成にあたり、新たな社会的養護の模索をするなかで、情緒障害児短期治療施設(情短施設)や児童養護施設の他に家庭支援センター・自立援助ホーム・情短施設を併設している施設、地域の中で住民の生活に根ざしている施設、国籍の問題を抱える児童を援助している施設など先駆的な取り組みや周辺領域の施設を見学させていただきました。各施設ではあたたかい対応をしていただき、有意義に研修をさせていただきました。各々が学習・体験してきた内容を学園に還元し活かしていきたいと考えています。

秋の職員研修訪問先

- 10/24 横浜いずみ学園 (神奈川県)、11/7,8 鳥取こども学園 (鳥取県)、11/17 沖縄島添の丘 (沖縄県)、11/21~23 北海道黒松内つくし園 (北海道)
- 有意義な研修をありがとうございました。

厚生労働省職員宿泊研修 (1/27~28)

児童福祉施設等実習の一環として、家庭福祉課措置費係・家庭福祉課指導係からそれぞれ各1名、1/27・28日の二日間に渡り宿泊研修を行いました。本園ユニットのホーム、日野キッズに入り、子どもたちとの時間を生活の中で共にしながら、地域の小学校や法人理事会にも参加されました。この研修経験は、児童福祉推進に行政の立場から活かしていきたいと反省会を終えられました。

園外会議 地域での取り組み

三小地域懇談会 (2/3)

この会議は、学区内の主任児童委員、民生児童委員をはじめとして、市・教育相談室、学園職員が一同に会し、「地域の中の子どもの様子」をテーマに情報交換や具体的な対策を考えよう、という趣旨で毎年行われています。今年も地域からは6名、学園からも施設長をはじめ、6名の職員が参加して活発な議論が交わされました。学校が地域の核となり、そして、地域が子ども達の未来を守るためにより一層活性化し、連帯していくことの大切さを実感させて頂く貴重な機会となりました。

自立支援検討会議

自立支援検討会 (10/26)

東京都からの指導により、児童養護施設では、子どもや家族が安心して生活でき、子ども自身の成長する力と主体性を引き出しながら自立を支援するために、児童相談所と相談しながら、一人一人の援助計画を立てています。当園でも子どもの意向を確認しながら、担当ホームから提出される支援計画案を全職員で協議し、一年を通して立案、見直し、次年度に向けての目標作りを行っています。10月26日には立川児童相談所所長はじめ7名の福祉司にご参加いただき、計画の確認を行いました。

第三者評価

今年も、昨年に引き続き子ども達、職員、経営者層とそれぞれのアンケートとインタビューに答え、福祉サービスの質の向上のために第三者評価を受けています。評価者は株式会社IMSジャパンで3月下旬に公表されます。

あいあいパトロール隊結成!

2月28日、「あいあいパトロール隊」の発足式が錦地区センターで行われ、当園の学園長も至誠グループの代表として出席しました。錦町地区は、これまでも環境改善や警察などによる昼夜のパトロールが定期的に行われています。地域住民、とくに小中学生の安心安全を守るのは、行政ばかりでなく地域住民一人ひとりです。地域力を高め、地域住民が連帯して守るという共通の意識から、パトロール隊は結成され、子どもたちの生活する安心安全なまちをつくりあげていく努力がなされています。

お力添えに感謝いたします

- 学園の園舎改築に関わる大きな借入金の返済資金にと、岩崎倉庫様より東京都共同募金会の指定寄付金としてご支援いただきました。
 - (財)昭和会館様より、新たなグループホームの備品等の購入資金をいただきました。
 - 故石川史郎様のご遺族の方々より、新規事業のためご寄付をいただきました。
- 心より感謝いたします。

今後の予定

卒園式

3月18日(土)に今年も学園の卒園式が行なわれます。今年卒園する児童は4名で、それぞれが進学や就職の道を歩んでいきます。当日は2部形式で行い、第1部のセレモニーは3時、第2部の会食会は5時からとなっております。巣立ちへの励ましを送るとともに当園で過ごした日々や思い出を和やかに語らう機会として、関係者各位の皆様にもご出席賜りたいと願っています。

マニュアル完成間近!

特別委員会を発足させ、NPO法人の協力を得ながら、福祉施設経営改革・人材育成の一環として、職務マニュアル(手順書)の作成に職員全体で取り組んでいます。年度内の完成を目指して、「実際に使いやすいもの」、「新任職員が読んで業務をスムーズにイメージできるもの」等全体的な目標を掲げながら危機管理や子どもへの対応を、項目立てをして検討・作成を進めています。

至誠センチュリープロジェクト

法人として100周年の計画が始まりました。職員の人材育成と通所長産まことクラブの将来について進めています。

2006年度ガーデンパーティー実行委員会始動!

全ての子ども達の幸福と健やかな成長を願い、夢と希望の原動力となる楽しい一日を企画するため、ガーデンパーティー実行委員会の第1回目が10団体25名のご参加を得ていよいよ始動しました。今年のテーマは「みんな集まれ!世界の笑顔をプロデュース」に決まり、記念バッジのイラスト募集を始めました。5月7日の実施に向けて第2回実行委員会を4月16日に開催し、なお一層プログラムを練り準備を進めたいと思います。ご参加・ご協力をお待ちしています。

《児童福祉週間行事》

至誠学園ガーデンパーティーのご案内

日時:2006年5月7日(日)

10:00~14:30

場所:学園園庭及び根川河川敷

ゲームのブース、食事模擬店、アトラクション(明星大学マーチングバンド、法政大学チアリーディング部、バンド演奏、大道芸)、ボーイスカウトロープワークほか

是非ご来園下さい。お待ちしております!

至誠学園後援会入会のお礼・ご案内

今年度も多くの方々からの後援会費のご送金に、心より感謝を申し上げます。頂戴した会費については、後援会だよりでご報告させていただきます。

今後とも、変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。また、新規のご入会も随時受け付けております。子どもたちのために、あたたかいご支援いただけますようご入会をお願いいたします。

至誠学園後援会 会長 三田鶴吉

＜後援会ご入会内容＞

1. 個人会員 1口(年額2千円)以上
2. 団体会員 1口(年額5千円)以上
3. 賛助会員 寄付金

振込先

口座名:至誠学園後援会

郵便振替口座

……口座番号 00140-2-356681

中央三井信託銀行立川支店

事務局:至誠学園 立川市錦町6-26-15

TEL 042-524-2601・FAX 042-524-2367

立川市・日野市ショートステイ事業

地域子育て支援事業の一環として始まったショートステイ事業(宿泊型一時保育)は、平成17年度(18年2月現在)昨年比で五割増のご利用を頂いております。主にショートステイ専用の部屋「こまどり」にて落ち着いた環境の中、職員と一緒に食事をしたりテレビを見たり宿題をしたりしています。核家族化や共働きなど子育てに不安を感じる昨今ですが、少しでもサポートできるように今後とも努めてまいります。

至誠学園の冬景色



1月21日(土)、東京にも初雪が降りました。学校もお休みなので、子どもたちは朝から大はしゃぎ。降り積った雪のじゆうたんは、あっという間に子どもたちの足跡でいっぱいになりました。学園のお兄さんお姉さんと大きな雪だるまをつくったり、激しい雪合戦を繰り広げたり、お部屋で雪のシャーベットを味わってみたり。子どもたちは、思い思いの楽しいひとときを過ごしました。

編集後記

立春も過ぎ、野面をわたる風のそよぎにも、ほのかに春の風がただよっています。学園の軒の梅もほのかに白く匂って、春はもうそこまで来ています。

お待たせいたしました。2006年春の学園だよりを発行する季節になりました。平成18年度は、心も新たに、年3回の学園だよりの発行を目指し、ただいま広報委員会で計画中です。変わらぬご支援、ご協力を感謝を致し、これからもより身近に感じていただける学園として、学園だよりを皆さんにお届けしたいと思っております。些細なことでもお気づきの点がありましたら、ご意見、ご感想などお待ち申し上げます。(広報委員会)